

学期	月	時数	題材名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	1	オリエンテーション	自身の内面にある美しさに対する感情に関心をもち、自己の発見と美意識と美術に対する関心を持つ。	前学年で得た知識を思い出し、美術科とは何かを考えることができる。	美術分野についての考察を深め、自分の身近にある美しいと思うものを言葉で表現することができる。	身近なものの見方の多様さと美に対する表現の多様さ、クラスメイトの発想に関心を示そうとしている。
	4 5	4	ファイル表紙制作	今までの学校生活で得た知識を工夫して自分らしく、学習に使う道具としてのファイルの表紙を制作する。	前学年までの学習と、自身の経験から得た知識と技術を活用し、美術科の表紙として機能するデザインを制作することができる。	自分らしいモチーフを選択し、色や形を駆使した表紙のレイアウトを構成し、デザインすることができる。	美術という科目において、自分が使う教材であることを前提とした表紙を工夫して制作しようとしている。
	5	4	一点透視図法	レオナルドダヴィンチの「最後の晚餐」を模写し、一点透視図法の成り立ちとその作図技法を理解する。	一点透視図法の技法と空間表現を理解し、作図を工夫することができる。	一点透視図法の技法を用いた作品を自分らしく発想しようと考察することができる。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に新たな創造をめざした作者の表現の工夫を感じ取る創作の学習活動に取り組もうとしている。
	6 7	5	自分の時を刻む時計	社会人として生活するうえで時計は必要不可欠である。今の自分の生活環境、自分の部屋やパーソナリティ、心理状況に即したデザインを考え、自分が使うことを想定した、自分の分身のようなイメージで時計を制作する。	時計の存在意義と活用方法を理解している。材料の特徴を理解しデザインしようとしている。作品を置く環境を意識して形や色を考え、さくひんと環境との調和を考えた作品を制作することができる。	時計制作のための素材を持つ特性を見極め、自分らしいデザインを落とし込む工夫をしている。生活するうえで使いやすく、心地よいデザインを発想することができる。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品を置く環境を意識して作品にあらわす表現の学習活動に取り組もうとしている。
2	9	4					
	11	4	鑑賞	日本の伝統文化に親しむ。工芸品や日本絵画について学び、日本の文化について理解する。	日本の仏像と伝統工芸を鑑賞し、よく観察して特徴を捉えて模写しようと工夫することができる。	日本らしさとは何か、日本の伝統文化や日本美術史の学習から自分なりの答えを導き出すことができる。	今、自分が暮らしている場所がどのような文化をもって成立してきたのかということに思いを馳せ、興味関心を示そうとしている。
	2 12	4	西洋美術史	レオナルドダヴィンチの「最後の晚餐」を鑑賞し、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに興味を持ち作品の見方を深める。	レオナルド・ダ・ヴィンチやルネサンスの美術を全体のイメージや作風で捉えることを理解することができる。一点透視図法の技法と空間表現を理解し鑑賞の仕方を工夫することができる。	レオナルドやルネサンスの美術の造形的なよさや美しさを感じ取り、新たな創造をめざした作者の表現の意図や工夫について考えるなどして、美意識を高め、美術文化への見方や感じ方を深めることができる。	新たな創造をめざした作者の表現の工夫を主体的に感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
3	1 2 3	9	篆刻	自分の名前をデザインして石に彫刻して印を制作する。	篆刻とは何か学習し、その働きを生かす文字を選択することができる。	自分の名前を篆刻の働きを意識したデザインに変換することができる。持ち手のデザインを工夫してデザインすることができる。	道具の注意点を意識して、危険のないように集中して制作に取り組もうとしている。
			35	評価方法	- 作品 - ワークシート - 鑑賞プリント - 定期テスト	- 作品 - 授業、実習態度 - ワークシート - 鑑賞プリント - 定期テスト	- 授業、実習態度 - ワークシート - 提出物